

# 国家戦略特区介護ロボット等実証施設公募選定検討会 会議要旨

## 1 議 事

(1) 国家戦略特区介護ロボット等実証施設公募の検討について

## 2 開催日時

平成28年6月20日(月) 19:00～21:10

## 3 開催場所

本庁舎8階 81会議室

## 4 出席者名

構成員 橋元座長、泉構成員、岩田構成員、實政構成員、田代構成員、中村構成員、  
福嶋構成員、丸林構成員

事務局 総務部長、地域福祉部長、介護サービス担当課長、計画担当課長 ほか6名

## 5 会議の非公開理由

会は、不開示情報(北九州市情報公開条例第7条)に該当する事項について意見交換するため、非公開とする。

## 6 会議の内容

議事1 国家戦略特区介護ロボット等実証施設公募の検討について

(1) 事務局説明

- ・今回の公募は、本市が国家戦略特区として指定されたことに伴い、作業分析や介護ロボット等の実証実装を行なうフィールドとなる施設を公募するもの。
- ・募集数は、広域型特別養護老人ホーム1施設、地域密着型特別養護老人ホーム1施設の計2施設(いずれもユニット型)。
- ・最終的に6件の応募があり、基本項目の審査を行ったところ、いずれも「適」となった。
- ・公募の選定方法、応募法人の提案概要及び事業者ヒアリングの結果について説明。

(2) 応募法人の提案の評価に対する会議での主な意見

【選定された法人に対する意見】

- ・全ての評価項目について標準的なレベルを満たしており、全体的に一定の評価ができる内容となっている。
- ・提案項目に対して、主眼・着眼点を踏まえ介護ロボット等を意識した基本的な考え方や取組みがわかり易く整理されており、内容も具体的であった。
- ・実績があり、提案内容に説得力がある。
- ・ノーリフトを前面に出しているのは、現場がロボットに対する抵抗が少ないことを

意味しており、望ましい。

- ・職員が経営戦略会議に参加しており、他の事業者に比べて、職員の理解が得られやすい環境になるのではないか。
- ・介護ロボット等の実証をする際は、平常よりも職員の増員が必要となることが想定される。施設側・法人側で協力体制があり、デメリットがあっても積極的に取り組みたいという姿勢が提案されている施設は良いと思う。
- ・介護ロボットを導入すればよいというわけではなく、一番基本となるケアプランを充実していく、それを良くするために介護ロボットを導入していくという発想が重要。
- ・介護ロボット等の操作性についても考慮が必要。
- ・介護者の視点が多かったが、利用者の視点にも気をつけていただきたい。

#### 【選定に至らなかった法人に対する意見】

- ・提案項目に対して、介護ロボット等を意識した基本的な考え方や取組みに欠けている部分があった。
- ・基本的な考え方や具体的な取組みについての提案が少ない項目や、内容が一般的・抽象的な説明に留まっている項目が多い。

### (3) 検討の結果

各法人から提出された提案書等の内容について意見交換を行った結果、広域型特別養護老人ホームでは「サポートセンター門司」、地域密着型特別養護老人ホームでは「好日苑大里の郷」が、実証を行なう体制がより整っており選定に適しているとして、付帯意見を含めた会議意見を取りまとめ、会議を終了した。